

「西田先生はどうして当選してこれたと思われますか？」

令和2年3月4日

●ヘムヘムさんからの質問

西田先生はどうして当選してこれたと思われますか？先生の主張は一般の日本国民には理解されにくいものだと思います。財政拡大路線に対しては「将来世代への借金を残すことになる」、憲法改正については「平和国家への道を踏み外す」といったように、大多数の国民は先生の主張に対してアレルギー反応を示すのではないのでしょうか？それにもかかわらず先生が当選回数を重ねてこられているということは、京都にはその主張が受け入れられる土壌があるのでしょうか？

●西田昌司の答え

私は30年前に初めて選挙に出て京都府議会議員になりましたが、その頃から憲法問題や財政問題といった国の根幹にかかわる問題意識を持っていました。国会議員となった今となってはそれらを堂々と主張していますが、府会議員の立場では言うようなことではないと思って遠慮していました。しかし、2～3期目の時、後援会長に胸のうちのうちを打ち明けたのです。

京都市や京都府についての議論をする際にも、国の根幹を見据えなければ本当の議論はできませんが、当時の府会議員でそのような議論をする人が（少なくとも、表面的には）いませんでした。府会議員の立場であっても有権者にそのような主張を発信したい旨を後援会長に伝えたところ、「言いたいなら言えればいいじゃないか」と背中を押されたので、演説会等を開いて自分の考えを有権者に訴えることをしてきました。

私の地元の方々には私の考えが徐々に広まって、理解してくれる人も少し

ずつ増えてきましたが、中には牙を剥く人もいました。13年前、私が参議院議員に初当選した時の選挙中、「西田さんの話を聞いていると、どうも今の憲法を否定しているように思えるのですが、そうなんですか？」とある方から尋ねられたので、「今の憲法は、憲法の資格がないと思っています」と答えたところ、「国会議員になろうとしている人間が憲法を護らずにどうするのだ」とマジ切れされたのです。そしてその後、その方は私の前に姿を現わすことがありませんでした。

自分の考えを相手に伝えるのはなかなか大変ですし、まして国の根幹にかかわることとなればなおさらですが、だからといって政治家が言うべきことも言わずに当選を重ねてしまうと、そのうちに政治家という仕事が単なる生活の糧を得る手段となってしまって、世の中のためになりません。いくら反対されようが言うべきことは言わねばなりませんし、そうやって根気よく訴え続ければ（いくら言っても通じない人には通じませんが）支援者も少しずつ増えていくでしょう。

私にはそのような粘り強い活動をしてきたというちょっとした自負があります。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>